

役場庁舎の移りかわり

[最初の役場](#)

[二回目の役場](#)

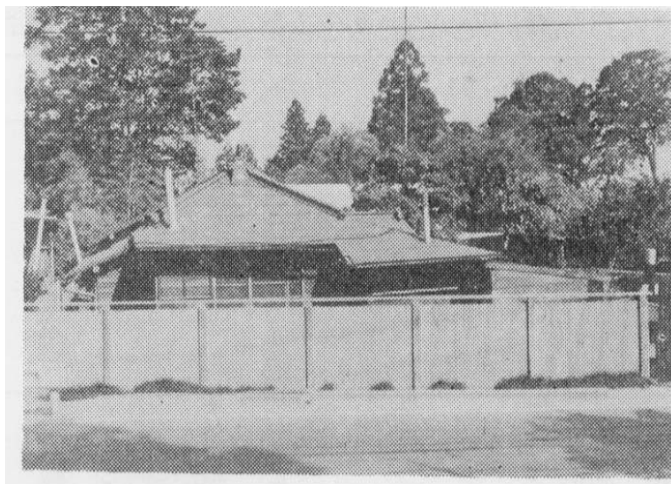
[三回目の役場](#)

[四回目の役場](#)

[現在の役場](#)

最初の役場

酒々井町が誕生して最初の役場は酒々井町下宿、麻賀多神社前の現川島正一氏屋敷地に、当時、石渡勘右衛門家の持家があり、この建物を明治11年(1878)以来、酒々井町外数か村の戸長役場として使用していたものを、そのまま町役場として使用することになりました。石渡勘右衛門の家は現酒々井郵便局前(現中台商店)にあったので、この家は貸家で、余り広くはなかったようです。



二回目の役場

二回目の場所は酒々井1678番地、現酒々井郵便局のある場所でした。ここは当時鶴岡縫之助が郵便局を開局していたが、都合により廃止、自家を新宿に新築して移ることになった。郵便局業務は、筋向うの石渡勘右衛門(現中台商店)が引き請けることになった。旧局舎は町で買収して、ここに役場を移すことになりました。この建物は二階建てであり、郵便局を改造したもので、一応事務室、会議室もありました。

この役場は町の中心地にあり、便利な場所でしたが、借地であったために、大正4年に土地を返すことになりました。

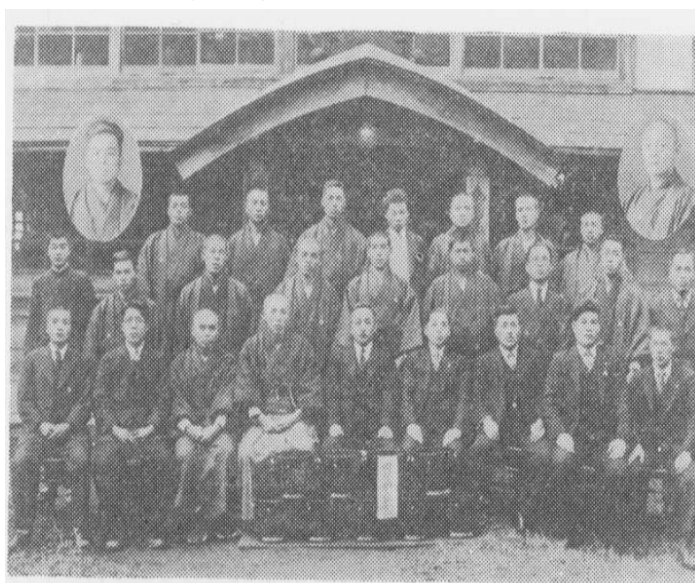
三回目の役場

三回目の役場は、勝蔵院脇の元、酒々井小学校のあった跡地(現本佐倉城調査事務所)へ移転することになりました。この移転工事は、蒔半蔵が町長在任中の大正3年2月の町会で、予算金400円で移改築を議決して、翌4年4月、開庁式を会費一人金50銭で行っています。

この役場は15代町長蒔半蔵から23代町長松本三郎在任中の昭和15年まで25年間続きました。勝蔵院脇の役場時代は、大正初期に始まり、関東大震災、昭和初期の経済恐慌による大不況、満州事変の勃発から日中事変への発展、大東亜戦争に突入の直前に当たり多くの大事件のあった時代で、歴代町長はその対処に苦慮した時代でした。

庁舎は郵便局の改造庁舎である上に、場所は裏通りで、東南側に大きな樹木があり日陰で、庁舎も手狭、老朽化が目立ってきました。

三回目の役場庁舎 昭和5年10月
(国勢調査記念写真)



四回目の役場

このような時に、篤志家の寄贈によって次の場所に移ることになりました。四回目の役場は酒々井中宿の１６７０番地、現農協会館のある場所で、当時は酒々井町の中心地であった。

この役場の寄贈は馬橋区の酒造家、飯沼喜久蔵の篤志によるもので、土地４２０坪（１３５３平方メートル）、庁舎は木造二階建て、建坪６６．８坪（２２０．５平方メートル）の和洋折衷のスマートなものでした。階下には事務室、収入役室、町長室、和室二間、使丁室があり、階上には会議室となっていました。昭和１５年当時の町人口は４６５０人、世帯数は８３７世帯でした。現在の４分の一以下でしたから、これだけの面積があれば役場としての機能は十分に発揮することができました。この役場時代は昭和１５年から、４７年までの３２年間です。この間は大東亜戦争の勃発から敗戦、戦中戦後の食糧・物資不足、思想の大変革、そのあとの高度成長など変転極まりない時代でした。戦後の民主主義のもとに、住民サービスが要求される時代となり、役場機構が著しく膨張することになり、この庁舎では諸事困難となり次に移ることになりました。

４回目の役場庁舎



現在の役場庁舎

五回目の役場は現在のものです。この頃中央台団地の造成がはじまっており、この団地の南端に役場庁舎が建設され、昭和47年5月10日に移りました。当時の地番は酒々井1136番地、後に町名の変更があり、中央台4丁目11番地となりました。新役場の敷地面積は7620平方メートル（2309坪）、庁舎は鉄筋コンクリート三階建て、建物面積は1380平方メートル（418坪）、建物延面積2571.5平方メートル（779.2坪）と中宿にあった庁舎とは格段の差のある規模で、将来の発展を見越して設計されたものでした。役場庁舎が新設された昭和47年当時の町人口は6927人、世帯数は1602世帯でした。



酒々井町役場庁舎